

大草谷津田いきものの里 自然観察会

白いチョウはモンシロチョウ？

山口由富子（市原市）

日 時：2012年5月6日（日）10：30～12：00 天候：曇り

参加者：17名（大人14名 子ども3名）

担当指導員：田井中信子・山口由富子

この日の参加者は、そこそこに集まったものの、何か『動』が、感じられないという。例年だと、虫取りの網とか虫かごを持ったこどもたちで、おおいに賑わっていたそうだが、今年のこどもたちは、わずか3人。そして参加者全員が、手ぶら。

たぶん、連休最後の日とあって、お疲れだったのかもしれないと、勝手に事情を推測するにいたり、思わず苦笑が口元に浮かんでしまった。

用具は、スタッフサイドのものを手渡し、恒例となっているいきものの里の成り立ちや諸注意を伝える。

スタートに先立って、この季節に観察できる白いチョウの代表的な3種類（モンシロ・スジグロ・ツマキ）の写真を見せ、捕獲方法や観察要点などを説明してから、スタートした。

粛々と進んでいた一行も、杉林のなかのムラサキケマンの種に触れ、力強くはじけ飛ばす様子に、やっと歓声があがる。

谷津田に降りても、目的のチョウの姿は一向に見当たらず、そう言えば、今年に入ってからの大草谷津田の自然観察会は、アカガエルの産卵やウグイスの初音、新緑など、テーマに沿えないような現象が続いている。計算通りに行かないのが自然というものなのだろうが、不思議や不審を通り越して、最近では不気味さすら感じてしまう。

それでも、行動中にモンシロの♂・♀が1頭ずつ捕獲でき、その違いや食草、生活パターンなどを説明できたことは、せめてもの成果かと自己評価にとどめた。

この観察会の常連さんは、もう、どこにどんな生き物がいるかなど、よく知っていて、我々指導員より先に、水辺に降りたりするので、要注意ではあるが、楽しさを見つけるのも早い。今回は、アズマヒキガエルのオタマジャクシに殺到。その大集団の様子に歓声上がり、そのなかの数匹を観察ケースに入れて見ると、後ろ足の出ている個体が何匹かいた。自然は、それなりに着々と進んでいることを知り、ほっと安堵した。

【観察記録】 ベニシジミ・ジャノメチョウの仲間・スジベニコケガ・シオヤトンボ・カメムシの仲間・ヒゲナガハナノミ・コガタルリハムシ、コガタコガネグモ、カナヘビ、ツリバナ・コバノガマズミ・カントウタンポポ・ウラシマソウ

【参加者の感想】

- ・チョウがたくさん飛ばなかったのは、残念。
- ・季節の移り変わりが、動植物に現れていて、よくわかった。
- ・食草の実物を見せてもらって、理解できた。
- ・久しぶりに網を振り回して、童心に帰り、楽しかった。

